

社団法人 豊中市シルバー人材センター機関誌

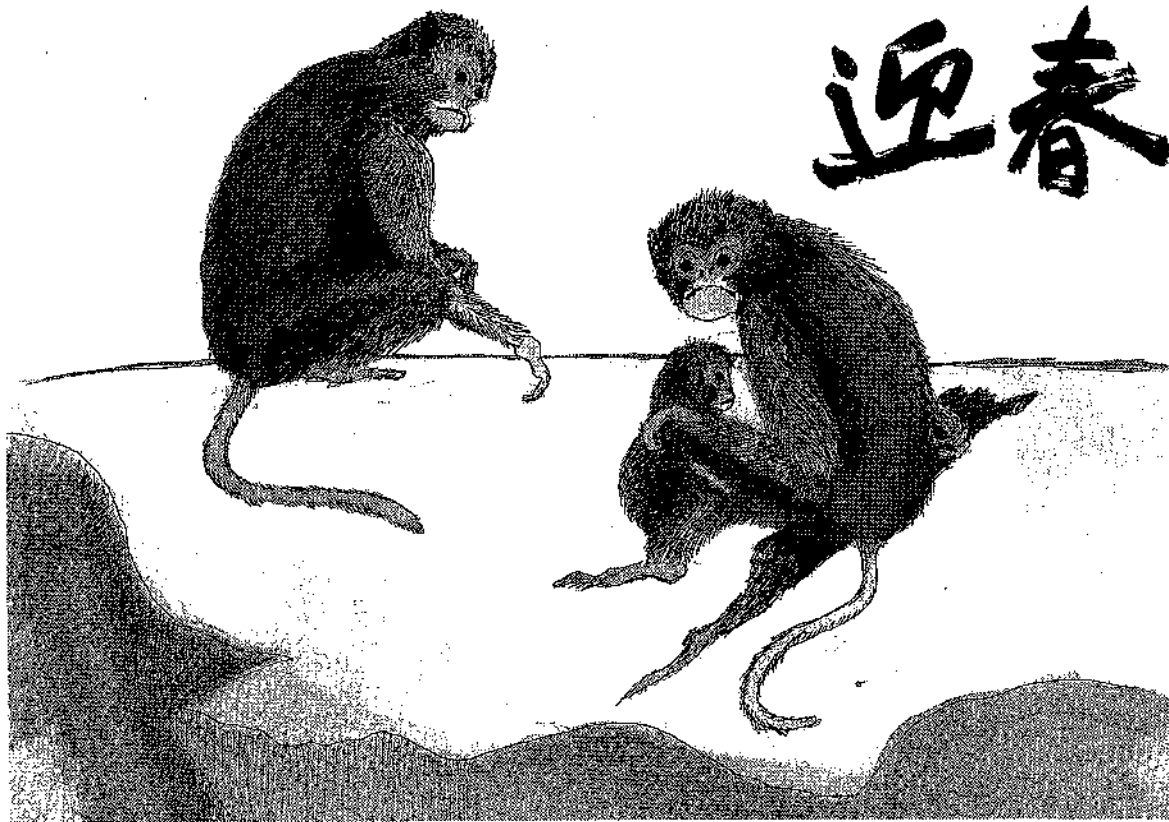
# ふれあい 第14号

豊中市北桜塚2丁目2番1号

編集・発行

社団法人 豊中市シルバー人材センター

TEL (06) 856-1777(代)



謹賀新年

本年もどうぞよろしく

お願い申し上げます

監	監	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	專	副	理	
事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	務	理	事
藤	林	久	福	桃	増	宮	正	杉	西	山	大	今	中	長	山	元	片	酒					
田	田	保	田	井	森	崎	源	本	田	路	村	西	村	岡	口	田	山	井					
泰	泰	治	勝	延	貞	英	義	精	貞	政	弥	と	と	将	一	喜	千						
通	野	夫	啓	幸	子	郎	一	市	義	市	吉	渡	き	修	行	良	之	秋					

事務局職員一同

# 新年のごあいさつ



理事長  
酒井千秋

謹んで新春のご祝詞を

申し上げます。

皆様方には、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

旧年中は、当センターの事業運営に格別のご理解、ご協力を賜わり、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年は、十周年記念事業も、皆様の絶大なるご支援・ご協力によりまして、無事盛大に挙行することができましたことを、心から厚くお礼申し上げます。

今後は十周年を契機に、当センターが益々充実発展し、高齢者の「生きがいの場」として、地域に根差した活動となりますよう、会員各位の一層のご協力

をお願いいたします。

ご承知のとおり、シルバー人材センターは、益々進展する高齢化社会において、市民福祉の向上と、活力ある地域社会づくりに貢献するための団体であり、会員一人ひとりがシルバー人材センターの構成員であります。そして、センターの事業は法律にも明記されているとおり、原則として六十歳以上で、本格的な雇用を希望しない、定年退職者等に対する新しい就業システムであります。

即ち、センターの業務は、地域に密着した雇用関係以外の臨時的・短期的な仕事に雇用関係でなく、就業することによって、追加的収入を得るとともに、社会参加や生きがいを求めることを希望する高齢者を会員として、そのような仕事を地域社会から請負または委任の形式でセンターが引き受け、それを会員に提供することを基本的な仕組みとしております。

従って、センターと会員との間、発注者と会員との間には雇用関係はありませんので、雇用

関係を前提とする労働関係法規及び職業安定法との関係も形式的には生じません。

シルバー人材センターは故人大河内先生の高邁な理念と情熱により、設立され、全国的に普及し、大阪府下だけでも三十四団体のシルバー人材センターが活躍しています。

その中でも、当シルバー人材センターは他団体に比べ、屈指の存在であり、順調な発展をしていることは、各関係機関並びに会員各位のご努力のお陰と、厚く感謝を申し上げます。

どうか、会員の皆様におかれましては、本事業の一層の充実発展のため、地域班活動を核とし、一人でも多くの参加を呼びかけていただき、シルバーの理念のもと、地域社会の担い手として、ご活躍されますようお願い申し上げます。

終りに、皆様方におかれましては、本年もみのり多き、よい年でありますように、また、ご健康ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。

あけまして

おめでとうございます

第一班 地域世話人 江頭善蔵  
〃 〃 河嶋 勝

第二班 地域委員 田中幸男  
〃 〃 山田英明  
〃 〃 大山 茂

第三班 地域委員 熊田 潔  
〃 〃 小林 信太郎  
〃 〃 久保田 常豊

第四班 地域委員 谷脇次男  
〃 〃 松原 学  
〃 〃 浦 欣也

第五班 地域世話人 西岡正六  
〃 〃 若林 駿郎

第六班 地域委員 小原伸次郎  
〃 〃 畑中但雄

第七班 地域委員 杉本 精市  
〃 〃 地域世話人 坊 栄太郎

第八班 地域世話人 石田 芳美

# 年頭にあたって



豊中市長  
林 實

明けましておめでとうござい  
ます。

豊中市シルバー人材センター  
の会員の皆様には、つつがなく  
平成四年の輝かしい新年をお迎  
えのことと、お慶び申し上げま  
す。

平素、豊中市政の推進に格別  
のご理解とご協力を賜りまして、  
厚くお礼申し上げます。

一昨年私が市民の皆さんの信  
託を得て市長に就任し、早や今  
年は一期目の折り返し点を迎え  
ます。

年頭にあたり、その責任の重  
さを改めて痛感し、初心を忘れ  
ることなく、新たな気持で市政

の推進に全力を傾注してまい  
る決意です。

お陰様で、豊中市は昨年、市  
制施行五十五周年を迎え、昨年  
末に行われました民間機関によ  
る全国の百二十の市町村対象の  
「豊かさ度調査」でも、生活の  
快適度・安心度において全国一  
という評価を得るなど、良好な  
文化都市、住宅都市として発展  
を続けております。

今、二十一世紀を間近に控え、  
それぞれの地域の特色を生かし  
た自主自立のまちづくりが叫ば  
れ、国民が真に豊かさを実感で  
きる社会づくりが強く求められ  
ています。

加えて、高齢化や市民の価値  
観の多様化等を背景に、行政需  
要は益々増大・複雑化していま  
す。

こうした中で、市政運営は大  
変困難ではありますが、市民の  
生命と生活を守る立場にある私  
達行政に課せられた役割を十分  
認識し、住み、働き、学び、憩  
う四十一万市民が生活の質を高

め、快適で、利便性の高い、更  
に文化性豊かな生活を送ること  
ができる、活力と魅力にあふれ  
た「いきいき豊中」の建設を目  
指して、市民本位、人間優先の  
清潔・公正・信頼の市政を、市  
民の皆さんと共に力強く前進さ  
せたいと思っております。

シルバー人材センターも昨年  
設立十周年を迎えられ、酒井理  
事長さんを始め、理事の皆さん  
並びに会員の皆様のご努力で、  
全国的にも優秀な成果を上げて  
おられることに、心から敬意を  
表する次第であります。

今後も 幾多の課題を乗り越  
えられ、高齢者のいきがいの  
場としてのシルバーの発展を心  
から願うものであります。

終りに、今年も一層のご支援  
とご鞭撻をお願い申し上げます  
と共に、新しい年が皆様方にと  
りまして、素晴らしい年となり  
ますようお願いいたします。

- 第七班 地域委員 穂崎 政治郎 (七中校区)
- 地域世話人 幸田 朋和
- 第九班 地域委員 野口 高茂 (九中校区)
- 地域世話人 岩村 隆正
- 第十班 地域委員 宮崎 三雄 (十中校区)
- 地域世話人 山田 信夫
- 第十一班 地域委員 深田 稔 (十一中校区)
- 地域世話人 小西 章一
- 第十二班 地域委員 金指 文平 (十二中校区)
- 地域世話人 樺田 亀吉
- 〃 〃 玉手好二郎
- 第十三班 地域委員 山路 政市 (十三中校区)
- 地域世話人 長坂 浩吉
- 〃 〃 佐々木 信也
- 〃 〃 山崎 太美夫
- 第十四班 地域委員 原田 幸治 (十四中校区)
- 第十五班 地域委員 前田 正博 (十五中校区)
- 地域世話人 小川 晋一
- 第十六班 地域委員 正源 義一 (十六中校区)
- 地域世話人 織田 光夫
- 第十八班 地域世話人 金川 三郎 (十八中校区)



九班 岩村 隆正

「日帰りバスツアー」長浜への旅に、今年初めて参加させて貰いました。前日からの天気予報に気を揉み乍ら、九月二十七日当日の朝、天気は台風十九号の長崎上陸を告げ、日本海方面を北上し九州、四国、中国、近畿、北陸と最悪のコースを辿る予報に接し、大変な日に遭遇することとなり、気分も今一つで集合時間に馳せつけました。集合場所には、こんな悪条件の中にも拘らず、元氣よく会員の皆様の顔を見て一安心。

速から北陸道へと入り、長浜ちりめん工場の見学。ちりめんを織りなす織機の音を聞き乍ら、製品を見学し、バスは更に進み、大通寺に到着。早速、山門の前にて記念撮影、当時の歴史、襖に画かれた狩野派の名画に見とれ、当時を偲び大変な感銘を受け、バスに乗車。待ちに待った昼食会場「浜湖月」にて、山海の珍味に依る昼食をとり乍ら、カラオケ大会が盛大に施行され、湖畔のひとときを過ごし、帰途「黒壁ガラス館」を見学。一路復路に付き、また、バスの中でのカラオケも楽しく過ごさせていただき、朝から気にしていた台風もコースを変えたが如く、静かな日となり、無事午後六時頃市役所前迄帰省しました。日頃のシルバー人材センターの仕事の疲れも忘れ、本当に楽しい一日でした。これもセンターの皆様様の心からの旅行プランのおかげと、厚くお礼申し上げます。次の機会にも、是非参加させて戴きたいと思えました。

# 楽しかった



六班 宇都宮 義典

彼岸も明けた九月二十七日(金曜日)、我々豊中市シルバー人材センターの会員百二十名は、観光バス三台に分乗して一路、近江路から湖北へと向って豊中市役所前を後にした。

その日は朝からドンヨリと曇り、今にも漆黒(シッコク)の空から降りだしそうな、怪しい空模様であった。人と人との出会い、それは人生を大きく変えてしまうこともある大切なもので、かく云う私も人と人との出会いを大切に、これまでの人生をエンジョイしてまいりました。今回のバスツアーもそうした意味から、センターに入会して、二年目の私にとって、楽しみにして待った一日でした。

平素一緒に仕事をしていた仲間や、初めてお会いした諸先輩達と、和やかに車中での歓談、また、好きなアルコールなどを口にしたりして、楽しく語らい、時のたつのも忘れるほどでした。



途中バスは、長浜市内にある「浜チリめん工場」の見学に立寄りまして、そこで見た養蚕(ヨウサン)の繭から繰り出す糸(絹糸)に、更に、その糸を機(ハタ)に織りなす工程へと流れる作業を見て、その昔(五十年前程前)四国の片田舎で養蚕に励む折、背を丸めた老母(祖母)が繭から糸を無心に繰り出していた姿を想い起し、懐古にうるむものが有りました。

次に、観光の「大通寺」に至っては、寺内で観るすべての物が、優雅にして壮大で、その造りと景観は昔日(セキジツ)を偲ばせ、只々驚きと感激でいっぱいでした。バスは長浜城をぐるりと周りながら、琵琶湖の湖北が一望できる「浜湖月」へと到着。昼食は展望のきく大広間で一同が顔を合わせ、平素の仕事の延長や、四方山話に花が咲き、賑やかに、然も楽しく過ごさせていただけまして、満足感の絶頂でした。幸い心配された雨にも合うことなく、終日、楽しく和やかに事故も



七班 落合 順之助

九月二十七日、遠足に出掛ける生徒の様に、気も晴々と集った私達を乗せた三台のバスは、一路長浜に向けて出発した。行きは車も順調、近江町から長浜市に到着し、浜ちりめん工場を見学。初めて細い絹糸が何本も撚り合わされ、巻き取り織布にされる工程を見る事が出来て、京都で美しい西陣織物などが生まれるんだなど、痛感させられた。まゆ一つで千三百米もの長さになるって、



考えてもみなかったし、まゆの人形も可愛かった。次に大通寺を拝観四百年の歴史を経てきた偉大な楼門、広く重々しい本堂蔵されていた。今年も種々勉強が出来、皆さんと話し合いが出来たことを、うれしく思います。センター関係の方々、一方ならぬ心を盡くして頂き厚くお礼を申し上げます。終りに、健康第一に、共々生き甲斐のある日々を送りましょう。

# バスツアー



なく、帰阪できた事を喜び、また、事務局係員一同のご苦労とご配慮に感謝するものです。そして次回を楽しみしながらペンをおきます。

「出発の巻」目が覚めると直ぐに窓を開け空を見る。此の処不安定な空模様が続き、今も重たい雲が迫って来る感じ。やっぱり台風が近づいて来るのかな、遠くに目をやると、わずかに青い空が覗いて見える。今日一日はきつと大丈夫と自分に云い聞かせ家を出た。市役所前には、三台のバスがスタンバイしている。初参加の私は早くも胸がドキドキ、こんな気持は何年振りだろう。センターの皆さんもお揃いの半天姿で、一生懸



る、狩野山楽・探幽や円山応挙作と伝えられる山水絵のすばらしさに、驚嘆させられた。

長浜城を左に見て浜湖月に着し、湖を眺め乍ら、共に汗を流し励まし合った仲間と久し振り歓談、時の経つのも忘れるくらい、食事も美味しく実に楽しい一刻でした。帰路、黒壁ガラス館見学、何号館と名付けられた幾つかの珍しい黒壁の館が並び、立派なガラス工芸品に眼を見張り乍ら散策、写真もよい思い出になった。

近くには古戦場跡、寺院も多く、また、余呉湖湖北に足を延してみたいなど、名残りを惜しみつつ乗車、帰途につく。

命に我々のお世話をして下さる。「お早ようございます。今日はよろしくお願ひします。」「ご苦労さんです。」「お互いの言葉は弾む。周囲を眺めると、今日一日を精一杯リラックスしよう、そんなお顔が輝いてる男性の皆さん、そして、久し振りの再会でしょうか、賑やかなお話しに花が咲いてる女性の皆さん。やがて出欠の確認が始まる。私は指定のバスに急いだ。バスはエンジンの音も軽く発車、見送りの皆さん、市役所前を後にした。

「車中にての巻」バスは我々の楽しい気持を乗せて走って行く、私は前の席に落ち着いた。突然、この席は空いていますか？の声、どうぞどうぞよろしければ掛けて下さい。案ずる事も無く直ぐにお友達になる。ツアー最後までご一緒させて頂く事になり、お話によると私と同じ頃会員になられて、しかもお住居も同じ町と



の事、ご縁とは全く不思議である。次に今日一日お世話して下さい。方々のご紹介が済むと、早速にお菓子・果物そして飲物等々配られ、ツアーは刻一刻盛り上がる。間にお世話役の伊藤さんの楽しい・ユーモアと真じなお話に、一同拍手と大爆笑。細かいお心遣いが嬉しい。お人柄のせいかしら、嬉しいツアーになりそう。

やっとお待ち兼ねのカラオケコーナーが始まり、待ってましたの聲が掛り、頼もしい感じ。お得意の喉自まん、十八番の喉自まん。

マイクは手から手へと、テレビの歌詞に唄は手拍子から大合唱、さては合の手、気兼ねの無い同世代のナツメロは、心地良く車中に流れ修学旅行さながらである。

唄は世につれ、世は唄につれの喩えもある、過ぎし日のそれぞれ青春の炎は遠い彼方へと消え、頑張り続けた第一の人生は何時の間にか通り過ぎ、会員じゆく年の我々は第二の人生に向かって、悔なき青春も忘れることは出来ない。

何時の間にか新顔の私にもマイクが届き、周囲の気軽なお勧めにツイツイ風邪引きカラスの唄声よろしく、一曲唄わせて頂いた。拍

手の音が高く聞えた。唄い終ると何故か涙が出ていた。一台のバスの中でも明るい楽しい人の輪は広がって行く、思い切って会員になって良かった。顔を上げると係の方と目線(?)が合う、心配ないですよ、今日は充分楽しんでますか、と語り掛けて下さるような眼差しに私も微笑んだ。初め良ければすべてよし、参加を決めた時から今日までのチョッピリの不安が、何時の間にか消え、心の中は晴れ晴れと。移り行く景色を眺めつ、ツアーに参加して、ほんとうに幸せに思う素直な心になっていた。

### 俳句

中村 東風子

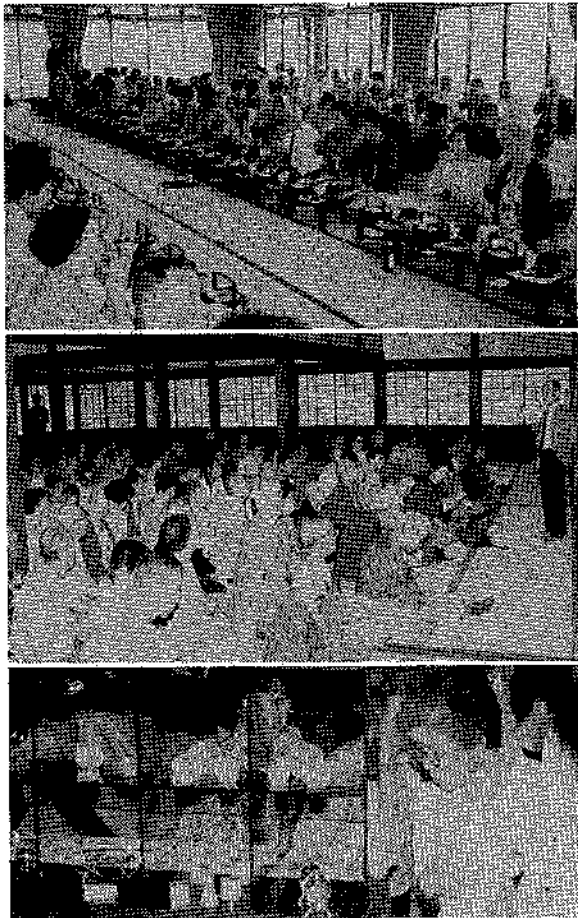
初詣 祈りは若き 日と同じ  
 停年の なきわが余生 去年今年  
 何か書く ことが呆け除け  
 去年今年  
 雑煮食べて そろそろ登る 傘寿坂  
 模様縫 無心に続け 冬温し  
 ビル建ちて 町の背ものび 年新た  
 手にあまる ことに手をつけ  
 年暮るる  
 追善の 香炉を清め 年惜しむ

六班  
小原 すゑこ

台風の 去りて写経の つづきかな  
 里よりの 一荷のとどく 富有柿  
 南天の 実を啄みに 小鳥たち  
 山茶花の 散り敷く円座 夜明月  
 蓑虫の 命たゆたふ 一樹あり  
 夕日さす 松山の 一樹 櫛もみじ  
 姉老いて わらべに 戻る  
 やぶこうじ  
 笑い顔 シルバーに通ふ 寒い朝  
 車窓より 大文字見える  
 もみぢ狩り

十二班  
溝尾 ミツノ

寒さにも 身を引き締めて  
 冬に入る  
 杖引いて 札所は遠し 紅葉路  
 被害なく 母住む里の 豊の秋  
 行く秋の 三ヶ根山を 尋ねたく  
 教職を 退きし老師の 秋の旅  
 秋灯下 仏間に集い 父徳ぶ  
 露の身の 誇られつつも 街に住む  
 客送り 出して気楽に 秋団扇  
 敬老の 記念の旅や ぶどう園  
 見渡せば 野山の紅葉 美しき



# 「台風との戦」の巻



十三班  
原田 天豊

鶏が狐と狸に狙われたしたので、新しい小屋を作ることにした。奥行七m、間口十二mで、土間六十m分をコンクリートにするため、セメント十二俵と軽トラ六台の砂と砂利を練って塗るのに、一人で二日半かかった。夜は体が痛く寝返りも出来ず、死ぬかと思った。間仕切りをして早く鶏を移したいと大工仕事に励んだが、金槌で右手の肩がうずき、力が入らない。今日は会員のバスツアーだなあ、と思いながら仕事に励んだ。健康長寿村作りに参加したいという人が帰った昼過ぎから、風が強くなり、仕事が捗らない。十時半頃より雨戸がしなり、今にも吹っ飛ぶのではないかと思うくらい、猛烈な風だ。とても寝ておれない。窓に布団を当て押えていたが、建て掛けの小屋が心配で外に出て見た。トタンがバタバタと釘が抜け音をたて、このままでは全部飛んでしまう。雨が降っているので裸で釘の袋を腰に付け止めて歩いた。積

んであったトタンや板が風にあおられ飛んでくる。屋根のトタンを押えてあった三mの丸太が飛んできた。とつさに顔を避けたが、右胸に当り息が出来ず、暫く胸を押えうずくまる。家に戻ってメンタムを塗る。突然バリバリと大きな音がして、屋根の一部が、空が見えるシマッタ家が飛ぶ。とつさに風下の戸を全部空け、風抜きをした。危なくて外に出れない。一時過ぎ台風も去り静かになった。小屋を見回ると、物置の屋根はなくなり、前の日よけの屋根も十m柱ごとなくなっていた。体中傷だらけ、胸が痛くて息ができない。もし山荘にいなかったら小屋が壊れて鶏は狐や狸に食われるところだった。胸にパンソコウをはっていたが、痛みが取れない。見てもらったらアバラ骨が折れていた。豊中に帰ると家内が私の体の傷を見て、ヒメイを上げた。よく見ると全身キズキズ。十一月二日やつと鶏小屋が二ツ出来、さつそく二十羽と三十羽を移した。驚いたことに、その夜空き家になった鶏小屋を狐か狸が、金網の下を三カ所掘って、中の餌を全部食べていた。友情の森から鶏が五十羽来るので、後二部屋急いで作らねばならず、

忙しいことおびただしい。

秋の取りあげ、大根やなつぱのまきつけ農作業は手抜きなし、週末だけでは時間が足りない。朝五

## 「シルバー人材センター

### 府民フェスティバル」に参加して



三班  
熊田 潔

府職業対策課ではシルバー人材センターの事業についての理解と認識を深め、事業主にセンターの利用促進を図るため、平成三年度「府民フェスティバル・経験交流会」を十月三十一日に大阪市の「マイドームおおさか」で開催した。会場ではシルバー人材センター事業の理念、運営の仕組み等をパネルで紹介、フスマ障子貼り、木工、和洋裁、植木の剪定等を実演、会員の作品展示と即売を行ったほか、経験交流会では枚方・吹田・柏原・高石各市のセンター会員が「ライフワークは人材センターで」等各標題を決めて、それぞれ

時懐中電灯をつけての仕事、夜は暗くなるまで働きどうし、自分でもあきれ仕事ぶり、青野菜をたっぷり食べて、明日もまた仕事仕事。

貴重な就業体験を発表した。

次いで各分科会に分かれ検討

一、人材センターの自主運営の浸透について

二、会員の技能講習の拡充

三、福祉・家事サービスの拡充

四、ホワイトカラー層の就業対策

一、の部会では八尾市から概要と組織の現状について報告

(八尾市) ↓今年八月から機関誌を発行し、企画・立案・発行を全て

会員に任せたとところ好評だった。

(和泉市) ↓農林地帯のため一軒の家へ勧誘に行くのに山道を一里ほど登る所もあり会員募集が困難。

(守口市) ↓会員募集は口コミとパンフを配布、他の方法があれば。

(貝塚市) ↓小学校単位で地域委員をつくり、毎月一回委員会を開催し、

市と共催で会員の作品展を開催。

(吹田市) ↓事務局体制は市の出向を減らし、局長も市のOBである。

会員数は千人で老人人口の一割弱。

等苦心の対策が発表され、各市

共会員の増強と確保、退会の防止

が共通した最大の課題であった。



## 上手に薬と

### 付き合うための

#### アドバイス

「八四・九%」、これは全国の六十五歳以上の人が、一年間に少しでも床にいたり、治療(売薬を含む)を受けたことのある割合です。現在は「一病息災」といって一つや二つ病気をもっている、正しく療養して快適に過ごすことが目標とされています。

けれども、人によってはいくつもの病気を同時にわずらっているため、随分沢山の薬を飲むこともあります。薬だけでお腹が一杯になってしまったという話も、決して笑い話とはいえません。

そこで今回は上手な薬との付き合い方について考えてみましょう。幾つかの病院や診療所に掛かるとき、他の病院でもらっている薬を持っていきますか。これは同

じ薬をダブってもらうことや、飲み合せの悪い薬を処方されることを防ぐために、決して忘れてはならないことです。薬は見た目で色や形やメーカーが違っていても、成分が同じことがありますので、医師に必ず見せるようにして下さい。

また、自分の判断による薬の中断や増量は危険です。例えば、血圧を下げる薬を飲んでいて、常に血圧が正常域で落ちついている人が、「高血圧が治った」と考え、薬をやめたら、その反動で血圧があがったという話をよく耳にします。この人は決して「高血圧が治った」のではなく、「高血圧の治療中、薬でコントロールできている」状態だったので。

もし今、薬を飲んでおられたら、ご自分を振り返ってみて下さい。薬の量を調整して飲んでいませんか。疑問や心配事があるときは、気軽に医師に相談して下さい。

特に、過去に薬の副作用を経験したことがある人は、受診したときに必ず、医師にそのことを話し、どんな薬を飲んだとき、どんな症状が出たか、そのためにも新たに薬をもらうときは、何の薬である

か聞くようにしましょう。

さて、皆さんの中には「忙しくて食事ができなかつた」とか、「食欲がなくて一食抜いてしまつた」という経験はありませんか。そんなときの「食後」の薬はどうしていますか。飲まなかつたという人もいるかもしれませんね。

薬の中で絶対に食事の後に飲まなければならぬというものは、意外と少ないのです。中には糖尿病の薬や解熱・鎮痛剤など、必ず食後の服用を守らなければならない薬もあります。食事時間が不規則な人は、食事をとっていないでも薬を飲むか、食事をしてからでないと飲んではいけなさを、医師に尋ねておくといいでしょう。

最近では薬の副作用や効果が一般の人にも、広く知られるようになりました。だからといって、自己判断による中断や病院や診療所を転々と変えたりしない方が、よいことがわかっていただけたでしょう。慢性の病気のための薬とは、あせらず気長に付き合つて、この一年を健やかに過ごして下さい。

豊中市立保健センター

保健婦 徳山 浩子

あなたのゆたかな経験と  
技能を地域社会に!

★表紙の「書」は正源理事、「猿の絵」は十二班の玉手好二郎さん、人物カットは豊中市人権文化部女性政策課の中村徹夫さんにご協力いただきました。

## あとかぎ

会員の皆様には、平成四年の新しい年を和やかに、お迎えになったことを共にお慶び申し上げます。

シルバー人材センターは自主・自立・共働・共助の精神にもとづき、地域社会に貢献するこゝとであり、高齢者の生きがいの場として発展してきました。

十年が経過した現在、高齢者雇用安定法の趣旨と就業実態とが現実的にかみ合わなくなつてきています。全国のシルバーも同様ですが、毎日元気に働けることが我々の喜びであり、この権利は誰にも侵されたくありません。

最後に、原稿をお寄せ下さった方々に厚くお礼申し上げます。

編集サークル一同